乍憚口演

益御機嫌克被遊御座恐悦至極ニ奉存候随而私見世之儀御贔屓御蔭を以年増繁昌仕候段冥加至極難有仕合ニ奉存候依之此度御口取菓子別ニ新製工夫仕候品も是迄と御意ニ入候品々をさまざまの花の御詩料もよし形よく見て芳といふ御仰せまゝにひなを文新製仕品のあきハ金のとしちゑの板屋のかうきゆる簾越おそれ万歳も日和出の馬場之帰吾妻ほんぢう江戸の花すゝの笠の一かん牡丹打物の柚子木より物のかん難煉ようかん鼓（こ）の鈴鐸（りんとう）きゝさ波ア物する唐錦山鉾の出る祇園会（ぎおんゑ）をこゝろまで写せし京橋や石町ふ江戸の主いし中げし天ま羅の御仮宅大江蛇の八四ツも宝釜とバ撰（ひつ）ぬ煎（せん）茶の口取笹だんごより笹巻との折よつやき水呑菓子およばざる品を極上製仕度上申候殊更御得意様方へ唯（うて）味ハ似ぬ舌三寸口中まで風味よく上御風聴被成下多少にかぎらず御用向繁昌ちる菓の其本三口まで深き禅（せい）の林のこゝ上手寿上ことゆかしよかりて　秋長堂の

写士こ三保の紀の葉や雪白の風味　三千歳其美菓の打揃

右之外御進物御折詰御飾物好次第仕立上申候

南傳馬町三丁目
若林源盤樹

菓子舗口演　文庫10-8013-17
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library